

リケンテクノスグループ RIKEN TECHNOS GROUP

# CSR報告書

Corporate Social Responsibility Report

2010



## 編集方針

リケンテクノスは2002年10月に「環境報告書」を、2005年よりこれを「環境経営報告書」として、環境に 主眼をおいた企業としての取り組みと成果を公表してまいりました。2007年度からは社会的側面を含め 「CSR報告書」とし、企業の社会的責任(CSR:Corporate Social Responsibility)の観点からリケンテクノス グループの経営理念実現に向けた取り組みと成果をわかりやすく報告することを心がけています。

「CSR報告書」の第4号となる本報告書では、『もの造りの原点』に焦点をあて、「マテリアル・ソリューション・サプライヤー」としての様々な取り組みを紹介いたします。

#### 報告書の対象範囲

#### 報告対象期間

2009年4月1日~2010年3月31日

なお、本報告書には一部2010年度の活動内容も含んでいます。

#### 報告対象範囲(所在地は12~13ページをご覧ください)

本報告書における環境報告の対象範囲は、リケンテクノス(㈱およびそのグループ会社下記12社です。項目によってはグループ会社を含まない場合もあります。

#### 対象グループ会社名

- ●進興電線株式会社
- 株式会社協栄樹脂製作所
- ●カネコン商事株式会社
- ●エムアイ化成株式会社
- リケンタイランドカンパニーリミテッド
- ●PT. リケンインドネシア
- 上海理研塑料有限公司
- ●理研食品包装(江蘇)有限公司
- リケンU.S.A.コーポレーション
- リムテックコーポレーション
- リケンエラストマーズコーポレーション
- ●リケンテクノスヨーロッパB.V.

#### 報告対象分野

本報告書はリケンテクノス(㈱)およびグループ会社の経営・ 社会・環境に関する取り組みを報告しています。

#### 参考にしたガイドライン

本報告書の構成については、2007年6月環境省発行の「環境報告書ガイドライン (2007年版)」および2005年2月環境省発行の「環境会計ガイドライン2005年版」を参考に作成しました。

#### 発行時期

2010年10月(次回発行予定 2011年10月)

年度	発行年月	名称
2002	2002年10月	環境報告書
2003	2003年 9月	"
2004	2004年10月	"
2005	2005年10月	環境経営報告書
2006	2006年10月	"
2007	2007年10月	CSR報告書
2008	2008年10月	"
2009	2009年10月	"



#### 表紙について

リケンテクノスのコーポレートマークと群馬 工場所在地である群馬県の花「れんげつつ じ」を融合しました。

コーポレートマークは2001年の創立50周年を機に社名変更と同時に一新したもので、RIKEN TECHNOSの "R" をベースに、コア事業であるコンパウンドとフイルムのイメージを組み合わせて信頼感を表し、未来へ羽ばたくしなやかな翼の形を表現しています。リケンテクノスグループは、持続可能な社会の実現をステークホルダーの皆様ととも

に考え、行動していきます。

## 目次

編集方針

トップメッセージ

## 特集 「きちんと開発し、しっかり造り、ちゃんと売る」

技術本部7製造本部8営業本部9

## リケンテクノスグループの概要

製品のご紹介 10 国内・海外ネットワーク 12 リケンテクノスグループ概要 14 コーポレートガバナンス 16

## 社会性報告

お客様とのかかわり 18 お取引先とのかかわり 19 株主様とのかかわり 20 地域のみなさまとのかかわり 21 従業員とのかかわり 23

### 環境報告

環境管理活動 26 活動結果の概要 28 有識者の意見 35 編集後記 35

## 「きちんと開発し、 しつかり造り、ちゃんと売る ベンチャー企業としてのスタート



## もの造りの原点へ

当社は1951年(昭和26年)に理化学研究所の流れを汲 んで、理研ビニル工業として設立されました。塩化ビ 二ル樹脂加工を中心に、わずかな資金で「人と技術」 のみを頼りとするいわばベンチャー企業としての出発 であります。当時のチャレンジ精神・新製品開発・創 造性、といったものは、2001年にリケンテクノスへと 社名を改めた後も引き継がれるべき大切な精神です。

#### 昭和45年の永井亮三氏の講演

私が入社した1970年(昭和45年)に当時の社長である 永井亮三氏が「人」の基盤固めについて語った次の言 葉は、今の私の原点でもあります。①「全従業員の経営 者化」②「相互信頼感の育成」③「平凡な頭脳を訓練し 独創力を高め、総合力を発揮する」。

私は、いまのリケンテクノスにおいて、「相互信頼感」 を高めるために最も大切なことは、仕事に対する責任 感であると感じております。社員一人ひとりが責任感 を強く持ち、自己革新を成し遂げたときはじめて、お 互いの信頼感のもと、力を結集して独創性を生みだし、 他社の先手を取ることができます。ここにリケンテク ノスの明るい未来が開けると信じております。

#### 「きちんと開発し、しっかり造り、ちゃんと売る」

ベンチャー企業としての出発点を今改めて見直すこと で、「もの造りの原点」に立ち返ることができます。そ こで忘れてならないのは、まさに「きちんと開発し、 しつかり造り、ちゃんと売る」ことです。これを実践し てこそ、お客様と共に問題解決に取り組み、信頼感を 高めながらお互いの成長を促し、さらには社会の発展 に寄与することができます。

結果として、社員全員が一体となりワクワクした仕事 に取り組むことができ、未来へと飛躍できるはずです。

## リケンテクノスグループの基本理念

事業運営にあたっては、「正しい行動による利益ある成 長を通して企業価値を高めていく」というリケンテク <mark>ノスグループの基本</mark>理念が基盤となっております。具 体的には、以下のように社長としてコミットいたします。

- 1. 当社グループは良き社会の構成員として、あらゆる 法規、ルールを守り、社会の発展に貢献する
- 2. 当社グループは幅広い樹脂や添加剤を扱うメーカー と自覚して、環境配慮型の製品開発だけでなく製造 技術も含めより高いレベルでの環境対応を実現する
- 3. 長期ビジョンを全員で共有し、小さなことでも基本を 確実に行い、正しい方向で忍耐強く最後まで努力する
- 4. 社員一人ひとりの自主性を尊重しつつ、チームワークを最重視する
- 5. 全社員が一致協力し、スピード、やる気を出して革 新を実行する
- 6. 理念を体現できる人材を継続的に育てていく

## 経営の基本方針

## 私たちは「マテリアル・ソリューション・ サプライヤー」です。

「固有の価値を創造するマテリアル・ソリューション・サプライヤーとしてのリケンテクノスブランドを確立し、揺るぎない地位を国内外において築くこと」を経営ビジョンとし、「高い加工技術を活かした高付加価値の事業体質づくり」を目指します。技術を柱に、技術本部・製造本部・営業本部が三位一体となって、一層のグローバル戦略を推し進め、当社グループが造る、高品質で、高機能な製品を、世界のより多くの顧客に提供することを目指します。

## 環境に関する経営方針

#### 適切な化学物質管理

リケンテクノスグループは、化学物質管理に関する諸法 規・諸規制を遵守しています。また、自ら基準や目標を 定め、より高いレベルでの環境管理を行なっています。

#### 環境負荷の低減

環境に配慮した製品開発や生産からお客様にお届けするまでのあらゆる場面で、環境負荷低減を目標にした取り組みを行ない、廃棄物や二酸化炭素排出量の削減など地球環境保全への貢献を目指しております。

#### 情報開示

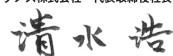
リケンテクノスグループのこうした取組状況と成果を 積極的に開示し、ステークホルダー、特に生産拠点の ある地域住民の皆様からご理解を得るべく努力してま いります。

#### リケンテクノスグループCSR報告書

本報告書はリケンテクノスグループの理念実現と社会 的責任に対する様々な取り組みとその成果をまとめた ものです。

本報告書を通じて当社グループの取り組みをご理解いただくとともに、忌憚のないご意見をお寄せいただきますようお願いいたします。

リケンテクノス株式会社 代表取締役社長





リケンテクノス株式会社 取締役、および監査役

## 特集 「きちんと開発し、しっかり造り、ちゃんと売る」

私たち、リケンテクノスの社員は、清水社長のもと、 「きちんと開発し、しっかり造り、ちゃんと売る」ことを実践します。 それは、もの造りの原点に立ち返り、リケンらしさを受け継ぐことでもあります。 お客様のために行動する、私たちの熱意と誠実さをここに特集いたします。





## 技術本部

技術本部は、リケンテクノスの中枢部であり、研究開発センター、知的財産部、分析センターにより構成され ます。次世代のため社会に貢献できる技術開発を行うとともに、グローバルな視点で特許戦略なども行なって います。

## 「従来の枠組みを超えた技術で、新市場開拓に挑戦する |



リケンテクノス株式会社 取締役 技術本部長 兼 研究開発センター長 研究開発センターは6つの開発室よ 佐藤 良一

研究開発センターは、リケンテク ノスの会社方針である「きちんと 開発し、しっかり造り、ちゃんと売 る」を実践するにあたり、出発点 である「きちんと開発」を担う組 織であります。

昨年、材料開発センター、フイル ム開発センターと群馬工場技術部 門の3組織が研究開発センターに統 合され1年が経ちました。

統合の目的は、リケンテクノスの 技術開発を一本化し、開発の効率 化を図る、次代の開発者育成とリ ケンテクノスの総合技術力を活か した製品を顧客に提供することに あります。

り構成されております。

それぞれの開発室は、次の通りです。

第1開発:新技術の開発

第2開発:電線·電装材開発 第3開発:車両材・エラストマ

一開発

第5開発:PVC・エンプラ開発

第6開発:フイルム開発

第7開発:精密コーティングフ

イルム開発

技術本部・製造本部・営業本部の三 位一体方針に沿い、営業本部と製造 本部(4月に発足)との連携に注力 して、競合他社と差別化した製品群 を市場・顧客に提供すること、新市 場開拓に挑戦し、リケンテクノスが 力強く、存在感のある優良企業とし て発展することを、研究開発センタ 一の役割と自覚し運営にあたります。

私たちは、現在だけでなく未来の市場に対して自由に着想できること、信頼される技術があること、そして 公平であることが、様々な原料メーカー、加工メーカー、顧客と協力関係を築く上で重要であると考えてお

ります。 この考え方を周知徹底できれば、適切なバ リューチェーンを定義、選択できるし、妥当なビジ

ネスモデルを構築できると考えております。その結果、合成樹脂 加工メーカーとして当社が独自性を継続、誇示できるようになる

私たちは、市場、顧客から要求があるから対応する「受動的思 考」、ただやりたいから取り組む「利己的思考」、周囲の意見に公 平に耳を傾けない「保守的思考」からの脱却に取り組んでいま す。この取り組みが、自ら新しいビジネスモデルを構築するとい う夢の実現に向けたチャレンジや、強い責任感を持ち周囲から信 頼される人材の育成につながるものと確信します。

私たちの思考様式、行動様式を含め、当社のビジネス全体が市 リケンテクノス株式会社 場、顧客から理解、支持され、将来に向けさらに発展することを 研究開発センター 第1開発室長 望んでいます。



田坂 道久

## 製造本部

製造本部は、埼玉工場、三重工場、群馬工場の3工場と、生産革新部、品質保証部、エンジニアリング部からなる大部隊。活動拠点はもちろん生産現場。複雑、高度化する加工技術を駆使し、安定した品質の製品を「しっかり造り」ます。

### 「しっかり造る部門として、環境・社会・顧客に貢献する。」



リケンテクノス株式会社 取締役 製造本部長 兼 生産革新部長 大河内 義孝

リケンテクノスグループは、会社方針として「きちんと開 発し、しっかり造り、ちゃんと売る」を掲げています。製 造本部はその「しっかり造る」部門として、高収益化に向 けた改革を具体化することを目標に、今年4月に発足しまし た。その会社方針は、もの造りの原点に立ち返り、お客さ まに満足していただける製品を製造、供給するために、Q (品質) C (コスト競争力) D (納期) を飛躍的に向上させ ていくことです。また、グループの基本理念に則り、環境 方針を達成するため、特に環境関連法規は合意事項の遵守 に止まらず、より高度な環境管理目標などを定め、継続的 に改善を行い、環境汚染の予防を推進します。また、国内 外製造拠点においては、地域環境保全に最大の配慮を執 り、従来以上の安全な操業を行い、さらに、適切かつ正確 な情報開示により社会からの信頼と理解を得ることに努め ます。そして、環境に良く、社会が望み、お客様に満足し ていただけるもの造りを進めていきます。

埼玉工場は、リケンテクノスグループのメイン工場として、世の中に役立つものを安心してご使用していただけるよう、またお客様に満足していただける品質と価格を求めて昼夜操業で生産しております。

工場運営としては、絶えずお客様の声を良く聞いて、スピード感を持って 仕事に取り組み、要求に早く応えられる開発〜生産〜出荷体制を目差しております。 私たちは合成樹脂加工メーカーとして、原材料を仕入れて中間原材料を製造する過程 の中で、要素技術を駆使した処方設計と各種の生産機種との組み合わせにより、「技術 のリケン」として、「しっかり造る」を合言葉に、どこにも負けない製品造りに努めて おります。

「しっかり造る」ということは、品質の良いものを確実に生産することは当然のこと、 納期を守る、安全に造る、環境に配慮することなどを基本として生産活動をしており ます。

工場の環境面では、樹脂加工メーカーとして各種樹脂を始め様々な化学材料を取扱うため、ISO14001環境マネジメントに沿って、化学物質管理強化、 $CO_2$ 削減、ゼロエミッションに取り組んでおり、今後も環境への配慮を最優先に活動してまいります。



リケンテクノス株式会社 取締役 埼玉工場長 井崎 俊一

## 営業本部

営業本部は、お客様のためのマテリアル・ソリューション・サプライヤーとして販売・営業活動を行なっています。お客様のご要望に沿うよう、開発から製造・販売まで進捗管理をするプロジェクトリーダーの役目も果しています。

## 「最も高品質な製品を(Q) どこよりも競争力のある価格で(C) 必要な時に確実にお届けする(D)」

営業本部に属するリケンテクノスグループの社員の使命は「ちゃんと売る」ことです。何故お客様に当社と当社の製品を選んでいただけるのか? 営業本部だけでなくリケンテクノスグループの社員全員が常に考えていなければいけない事です。生産現場から、本社の経理部門まで、お客様の顔を頭に描きながら、業務を致します。

今の世の中は「情報」が全てを制すると言っても過言ではありません。その全ての情報を各本部機能で有用な内容に書き換え、日々の業務遂行に繋げてゆきます。最先端であるべき営業本部の各担当はこの情報収集に努力致します。

また、私はお客様にQ・C・Dを満足いただける状況を社内外でいかに実践できるか、全ての努力をこの点に集中しております。Q・C・Dは、言い換えると安心・便利・納得価格とも言えます。全てのステークホルダーの皆様に今後共ご安心いただけるよう精一杯努力致します。



リケンテクノス株式会社 代表取締役専務 営業本部長 兼 コンパウンド事業部長 村上 文良

フイルム製品は住空間(住宅内装部材、住設機器、家電、電子機器材料など)に様々な形で活用されております。マテリアルソリューションサプライヤーとしてお客様に密着した営業活動を心がけ、市場のニーズ・ウォン

ツに対し開発、製造、販売の連携によりタイムリーな対応を図ると共 に、品質・コスト・納期の徹底でお客様に満足いただける事業を目指 しております。

今期からは精密クリーン事業(旧群馬事業)をフイルム事業に組み入れ事業の一元化によるリケンフイルム製品の高機能・高品質化を実施しております。「技術のリケン」(開発技術、製造技術、品質技術)としてもの造りの原点に戻り、フイルムという形態、機能でお客様にあらゆる満足を得ていただけるよう技術本部・製造本部・営業本部一体で邁進してまいります。

リケンテクノス株式会社

営業本部 フイルム事業部長 堀口 悦伸



## 製品のご紹介

私たちの製品は用途に応じて加工され、暮らしの中で活躍しています。



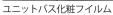


## フイルム製品

- 建築内装材のための化粧フイルム
- 家電・ユニットバス向け鋼板のための化粧フイルム
- フラットケーブル用フイルム
- 光学用フイルム
- ガラス用熱線カット、飛散防止、装飾フイルム
- 自動車ガラス用フイルム
- 半導体の製造工程用フイルム
- 電子部品用フイルム
- 太陽電池用フイルム









建築内装用 扉用フイルム



ガラス用装飾フイルム

## 食品包材

- 家庭用ラップ
- 業務用ラップ







## 国内・海外ネットワーク

リケンテクノスグループは、リケンテクノスおよびグループ会社12社で構成されています。 創業以来、積極的に国内外市場を開拓し、リケンテクノスブランドの浸透に努めてきました。 「マテリアル・ソリューション・サプライヤー」として、国内外拠点の連携により、総合的にお客様の課題を解 決しています。

#### リケンテクノス株式会社事業所および国内関連会社





₫埼玉工場

5三重工場

6群馬工場



③研究開発センター(埼玉)



# 0 株式会社協栄樹脂製作所



③エムアイ化成株式会社





②上海駐在員事務所

12カネコン商事株式会社



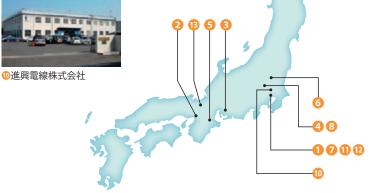
2大阪支店



3名古屋営業所



7研究開発センター(東京)



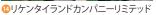
リケンテクノス株式会社事業所	主な業務内容	所在地
<b>1</b> 本社	本社機構、コンパウンド・フイルム・食品包装用フイルムの営業	東京都中央区
2大阪支店	コンパウンド・フイルム・食品包装用フイルムの営業	大阪府大阪市
3名古屋営業所	コンパウンド・食品包装用フイルムの営業	愛知県名古屋市
4 埼玉工場	コンパウンド・フイルム・食品包装用フイルムの製造	埼玉県深谷市
5三重工場	コンパウンド・フイルム・食品包装用フイルムの製造	三重県亀山市
6群馬工場	クリーン環境下での高機能フイルムの製造	群馬県太田市
7研究開発センター(東京)	コンパウンドの研究開発および国内外拠点の技術的サポート	東京都大田区
8研究開発センター(埼玉)	フイルムの研究開発および国内外拠点の技術的サポート	埼玉県深谷市
<b>᠑</b> 上海駐在員事務所	連絡事務所(フイルムの市場調査および顧客の品質・技術サポート)	中華人民共和国 上海市

国内関係会社	主な業務内容	所在地	資本金	出資比率
10進興電線株式会社	電線の製造・販売	埼玉県入間市	4,800万円	100%
<b>①</b> 株式会社協栄樹脂製作所	合成樹脂製品の成形加工および製品の販売	東京都中央区	2,400万円	100%
12カネコン商事株式会社	合成樹脂加工品販売	東京都港区	1,000万円	100%
13エムアイ化成株式会社	コンパウンドの製造・販売	滋賀県湖南市	3億円	100%

国内関係会社は本社所在地のみを表示しています。

## 海外関係会社







<sup>เ</sup>
□
PT.リケンインドネシア



6上海理研塑料有限公司



10理研食品包装(江蘇)有限公司



®リケンU.S.A. コーポレーション



10 リムテックコーポレーション



切りケンエラストマーズコーポレーション





2010年8月31日現在

海外関係会社	主な業務内容	所在地	資本金	出費比率
(L) リケンタイランドカンパニーリミテッド	コンパウンドの製造・販売	PATHUMTHANI THAILAND	1億2,000万 タイバーツ	40%
⑤PT. リケンインドネシア	コンパウンドの製造・販売	WEST JAVA, INDONESIA	570万米ドル	62%
16上海理研塑料有限公司	コンパウンドの製造・販売	中華人民共和国 上海市	750万米ドル	70%
17理研食品包装(江蘇)有限公司	食品包装用フイルムの 製造・販売	中華人民共和国 江蘇省	1,350万米ドル	91%
®リケンU.S.A.コーポレーション	機能性フイルム製品の 仕入・販売	NJ, U.S.A.	740万米ドル	100%
************************************	コンパウンドの製造・販売	NJ, U.S.A.	1,000万米ドル	51%
切りケンエラストマーズコーポレーション	高機能プラスチックコンパウ ンドの製造・販売	KY, U.S.A.	1,000万米ドル	100%
①リケンテクノスヨーロッパB.V.	機能性フイルム製品の 仕入・販売	AMSTERDAM, THE NETHERLAND	40万ユーロ	100%



## リケンテクノスグループ概要

リケンテクノス株式会社 社 名

設立年月日 1951年(昭和26年)3月30日

資 本 金 85億14百万円

代表取締役 清水 浩

従業員数 768名

本計所在地 東京都中央区日本橋本町3丁目11番5号

## 事業内容

リケンテクノスは塩化ビニル樹脂コンパウンドの商業生産とその販売を目的に「理研 ビニル工業株式会社」として1951年に設立されました。

2001年の創業50周年を機に社名を理研ビニル工業株式会社から「リケンテクノス株 式会社」(RIKEN TECHNOSは、"RIKEN" "TECHNOLOGY" "SUPPLIER"を統合した名称) に変更しました。

創業以来培われてきた合成樹脂加工に係わる総合的な技術をベースに「コンパウン ド事業」「フイルム事業」「食品包材事業」の3事業を柱に国内外で事業を展開していま す。 "マテリアル・ソリューション・サプライヤー (Material Solution Supplier)" とし て、多様化・高度化するお客様や社会のニーズに適合した高品質な製品・技術を提 供しています。

#### コンパウンド事業

コンパウンドとは、ベースの樹脂に添 加剤を何種類か混ぜ合わせ、新しい性 質を持たせた複合材料で、主に押出成 形や射出成形に使われる素材です。

#### ●主要製品

塩化ビニルコンパウンド、熱 可塑性エラストマー、導電性 コンパウンド、制電性コンパ ウンド、バイオマスコンパウ ンドなど

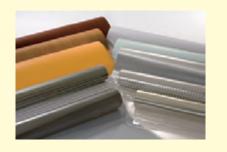


#### フイルム事業

配合した樹脂の特性に適した製法で高 品質のフイルム製膜を行っています。 また、複数のフイルムを貼り合わせた り、表面に機能性塗料をコートすること によって意匠性や機能性を付与したフ イルム製品を製造しています。

#### ●主要製品

建築内装用化粧シート、鋼鈑 用フイルム、ポリエステル樹 脂系フイルム、IRカットフイル ム、ガラス装飾フイルム、光 学用フイルムなど



#### 食品包材事業

日本で初めて塩化ビニル樹脂のラップ を開発したパイオニアとして、家庭用 から業務用まで、食品包材用ラップの 品質・性能を追求するとともに、食品 や自動包装機などに適したラップを開 発し、製造しています。

#### ●主要製品

塩化ビニルラップ、オレフィ ン系ラップなど



## 中期経営計画

#### 中期経営計画

2010年4月より新中期経営計画をスタートさせました。 方針の柱は『メーカーとして「もの造り」の原点に立ち返り、お互いの「信頼感」を基礎にした力強い企業 を再生すること』です。第1歩として、4月に革新的な 生産性改善により製品のQCD(品質、コスト競争力、 納期)を飛躍的に向上させる目的で製造本部を立ち上 げました。技術本部、営業本部、製造本部が一体となって、グローバルに顧客満足度の高い製品を提供する ことにより、事業の更なる拡充を目指します。

#### 主要テーマ

#### ● 体質の改善

業務プロセス管理を含めた業務改革と人材育成を行います。

② 高機能製品事業の拡大と高収益化に向けた改革 技術、製造、営業各部門が一体となって顧客ニーズに 応えます。

#### 🔞 全事業のグローバル化

成長・拡大する地域でビジネスチャンスを確実に捕捉 する体制をスピードをもって構築します。

#### 業績

詳細は当社ホームページの『財務・IR』のページをご覧ください。

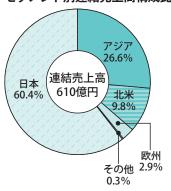
20	09	年度	業績
----	----	----	----

		(半位・限円)
	連結	個別
売上高	610	403
営業利益	24.9	10.5
経常利益	25.9	15.1
当期純利益	13.5	10.8

#### 業績の推移【連結】



#### セグメント別連結売上高構成比



#### 設備投資額および研究開発費の推移

(単位・倍田)



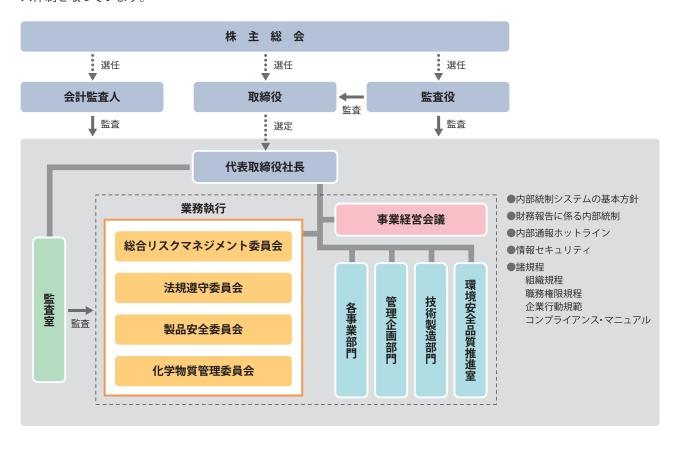
#### 従業員の推移





#### コーポレートガバナンス体制

リケンテクノスは下の図に示すコーポレートガバナン ス体制を取っています。



## リケンテクノスグループ 企業行動規範

社会的信頼を確保し、企業の社会的責任を果たす基本方針として「リケンテクノスグループ企業行動規範」

を定め、全ての役員および従業員がこれに従って活動 を行っています。

また、行動規範をカードにまとめて社員一人ひとりが 常に携行し、実践に努めています。

RIKEN TEGE	リケンテクノスグループ企業行動規範 IIIOS
	基本宣言 私たちは、この企業行動規範を遵守し競争や適正な取引を通して企業活動することを誓います。 この企業行動規範に反するような行為を見つけた場合は、 すみやかに適切な報告を行い改善に努めます。
署名日	
従業員署名	

## 企業行動規範

- 個人情報の保護に十分配慮し、顧客の満足と信頼を獲得します。
- 2 公正・透明・自由な競争ならびに適正な取引を行います。
- 3 企業情報は、積極的かつ公正に開示します。
- 5 環境問題に自主的・積極的に取り組みます。
- 6 社会貢献に積極的に取り組みます。
- 7 反社会的勢力には断固として対決します。
- 8 国際的な事業活動には、国際ルール・現地の法律を遵守します。

### 内部統制システムの 基本方針に沿った体制整備

「リケンテクノスグループ企業行動規範」を確実に実現するために「内部統制システムの基本方針」が制定されています。 ここに示された対象のうちコーポレートガバナンス上、特に注力するべき項目とその取り組み状況は次の通りです。

#### 1. 取締役・使用人の職務執行が法令・定款に適合することを確保するための体制

「リケンテクノスグループ企業行動規範」および法令・定款遵守が全ての企業活動においての基本であることを全員 に徹底する一方で、法規遵守委員会による全社管理を行い、法務担当部署による全役職員を対象としたコンプライアンス教育を実施し、また内部通報制度を設けています。

また、いわゆる反社会的勢力とのかかわりを断固排除することを宣言しています。

#### 2. 損失の危機管理に関する規定その他の体制

代表取締役社長を委員長とする総合リスクマネジメント委員会を設置し、事業活動に潜在するリスクのうち、特に 経営に重大な影響を与えるリスクとして特定したものについて、その発生を未然に防止し影響度合の低減に努める 一方で、発生時の対応の検討を進めています。

#### 3. 企業集団における業務の適正を確保するための体制

リケンテクノスグループ全体の内部統制システム構築と情報共有化の徹底を図るミッションを経営企画担当部署に 与え、グループとして業務の適正性が確保できる体制を整えています。

#### 4. 監査が独立性を保ち、実効的に行なわれる体制

監査役は社内の重要な会議に出席し、また稟議、議事録などの回覧を受け、企業としての意思決定が適切に行なわれているか確認を行ないます。代表取締役との定期的な意見交換を行なうほか、半期毎の会計監査人、監査室を合わせた3組織による意見交換、任意の役職員との間で随時ヒアリングを行い、実効的な監査が行なわれることを確保できる体制を構築しています。

また、内部監査については、2004年4月に設置した監査室が担当しています。内部統制の目的である「業務の有効性・効率性」「財務報告の信頼性」「法令などの遵守」「資産の保全」の達成のため、その6つの要素である「統制環境」「リスクの評価と対応」「統制活動」「情報と伝達」「監視活動」「ITへの対応」を主眼に置いた監査を実施しています。

#### 財務報告に係る内部統制

「金融商品取引法」に基づき、財務報告に係る内部統制の整備・運用および評価の基本方針書を作成し、2009年3月期決算から適用しています。

2010年3月期決算におけるリケンテクノスグループの財務報告に係る内部統制は有効であると評価する内部統制報告書を金融庁に提出しました。

#### 独立役員

リケンテクノスは、東京証券取引所上場規程第436条の 2の定めに従い、2名の独立役員を確保しております。

#### 内部通報ホットライン

リケンテクノスには内部通報規程があり、法令・規則 違反に関する疑問などを連絡・相談する窓口として内 部通報ホットラインが設置されています。相談者が社 内で特定されないようにするなど、匿名性を確保し、相 談者がいかなる不利益も受けないよう徹底しています。

#### 情報セキュリティ

リケンテクノスでは、アクセス制限・データの暗号化 などにより、情報漏洩リスクの最小化に努めています。 不正アクセスに対しては最新のプロテクトシステムを 導入し防止に努めています。

また、個人情報保護法に基づき、「個人情報保護基本規程」、「個人情報取扱規則」を制定・運用しています。

## お客様とのかかわり

リケンテクノスは「マテリアル・ソリューション・サプライヤー」として、お客様に満足いただける製品を開発 しお届けいたします。製品の安全性と品質にこだわり、化学物質の管理強化に努めます。

#### 製品の品質保証

リケンテクノスはISO9001\*1の仕組みを活用しています。各生産拠点に品質保証課を置き、原材料受入れから製品納入まで全工程の品質管理を徹底しています。さらに、毎月生産拠点・製造課でとに品質改善委員会を開催し、不良事例および改善対策、改善実施状況の管理を行い、一層の品質向上を目指し努力しています。また、製品の開発段階より、お客様のご要望を満たし、安定した品質が得られる材料設計に注力。新素材などの環境対応型製品も積極的に開発しています。

#### 化学物質の安全性の管理強化

#### ● 規制対象化学物質の混入防止ライン

ELV指令・RoHS指令などの規制対象化学物質の混入を 防止できるラインとなっています。

#### 化学物質管理委員会の設置

「化学物質管理指針」を設定し、法律で禁止されている 化学物質のほか、化学物質審査規制法の第一種監視化 学物質も使用しておりません。労働安全衛生上、避け るべき化学物質も自主的に削減しています。

#### 安全に配慮した製品開発

#### ● 製造物責任 (PL\*²) 対応

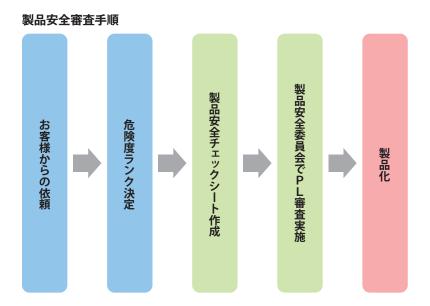
メーカーに課せられた使命として、当社設立以来、製品の安全性に配慮してきております。また、製造物責任法\*3の施行を機会に、1995年1月にPL問題の発生を防止するシステムを構築し、「製品の安全性」への取り組みをさらに強化しています。

#### 製品安全基本方針(製品安全規定より)

製品の開発段階からお客様への納入まで、製品の安全性を確立し、製造物責任に関する諸問題の発生を未然に防止する。

#### 製品安全組織





- \*1 ISO9001:製品やサービスの品質保証を通じて組織の顧客や市場のニーズに応えるために活用できる品質マネジメントシステムの国際規格
- \*2 PL: Product Liability 製造物責任
- \*3 製造物責任法:日本では1995年7月に施行

## お取引先とのかかわり

リケンテクノスでは、サプライチェーンを含めたより良い環境システム、品質システムの構築に努めています。 また、コストダウンのために購買の窓口を広げ、競争力のある原料調達に努めています。

購買本部長メッセージ



リケンテクノス株式会社 常務取締役 購買本部長 工藤 紳悦

## お取引先とともに共存・共栄で成長発展を

当社が提供する製品群は、自社技術のみならず、使用する購入資材の品質、安全性、コストなどにも依存しています。当社専用にカスタマイズされた購入資材も多く、お取引先とは長期的に安定した取り引きができるよう努めています。

また、お客様の満足のためには、お取引先にもさらなる品質向上、原価の低減、先進的な新技術の導入などの努力をしていただき、相互信頼に基いたパートナーシップを築くことが重要と考えます。これらを実現するために購買方針に沿った活動を行い、お取引先とともに共存・共栄で成長発展していきたいと願っています。

また、今年度からは全社的な業務効率を図るため、購買、製造、販売、経理などの基幹業務を統合的に管理できるように、新基幹システムの導入を推し進めていきます。

#### 当社の購買方針について

#### 1 公正な購買取引と選定

対等な立場で取引を行います。複数購買を原則とし、公正公平な参入機会を提供します。

#### 2 パートナーシップの構築

お取引先とは良好な人間関係を保ち、人間的 尊厳を重視し、不当な差別はいたしません。

#### 3 関連法令の遵守と自主管理

お取引先との機密情報の取り扱いに留意し、 社会的規範や関連法令を重視し、リケンテク ノスグループ グリーン調達基準に基づき購 入を行います。

#### 4 お取引様の状況

購入にあたり、特に「技術力」「競争力」「経 営力」を考慮しています。

#### 当社の購買体制について

当社の購買業務は、本社購買本部の資材部と、各工場の業務課が行っています。

本社資材部 集中購買による原材料・原反・ 燃料・包装資材・高額設備関連など。

各工場の業務課 消耗品・貯蔵品・設備関 連など。

#### サプライチェーンマネジメント

お客様により安全な信頼性のある製品をお届けするため、お取引先各社の協力を得て、サプライチェーンを含めたより良い環境システム、品質システム構築に努めています。2009年度は、19社の原材料購入先、委託加工先、運送委託先、産業廃棄物処理委託先の環境を含めた品質監査を実施し、改善にご協力いただきました。

### リケンテクノスグループ グリーン調達基準

詳細は当社ホームページをご覧ください。

ニチモウ株式会社 代表取締役社長 **小池 由紀夫** さん

貴社とのお取引は、昭和40年代に、弱電(テレビ、ステレオ)向け用途に、塩ビフイルムの開発を依頼したことに始まりました。現在では、貴社がパイオニアとして開発された住宅部材向



けの建材用フイルムの分野にもお取引が広がっております。半世紀近く、幾多の開発を共に行ってきた重要な良きパートナーとして、その技術力と開発力の高さ、そして環境への配慮には絶大なる信頼を寄せております。

#### 物流における環境への取り組み

- 自動配車組みシステムによる積載効率の向上。
- 製品納入の帰り車の利用による実車率の向上。
- 物流拠点の統廃合。
- ●モーダルシフト\*¹の推進。月間約100トンの製品輸送をトラック輸送から鉄道輸送へと変更。
- ・省エネ法による特定荷主としての義務。当社は、中 長期的にみてエネルギー消費原単位を年率1%低減が 目標。
- ユーザーからのパレットの回収により購入枚数の削減を推進。森林資源保護のためプラスチック製への変更を推進。

#### ● 品質安全活動

●提携運送会社によるISO9001の認証取得、Gマーク (安全性優良事業所)の認定取得を推奨しています。

#### 亀山急送株式会社

Gマーク登録証

登録日 2009年1月19日

有効期限 2011年1月18日

ISO9001登録証

登録日 2003年5月9日

有効期限 2012年5月8日

#### 株式会社モテギ

Gマーク登録証

登録日 2007年12月20日

有効期限 2011年12月31日

ISO9001登録証

登録日 2000年3月10日

有効期限 2013年4月1日

ISO14001登録証

登録日 2004年10月29日

有効期限 2010年10月28日

\*1 モーダルシフト:環境負荷の大きい輸送方法から負荷の小さい 方法に変更すること

#### 社会性報告

## 株主様とのかかわり

#### 情報開示について

リケンテクノスは、常に株主や投資家の皆様の視点に立った迅速、正確かつ公平な会社情報の開示を適切に行なっています。皆様に事業活動の状況や戦略などへの理解を一層深めていただけるよう、東京証券取引所の適時開示基準以上の積極的開示をするよう努めています。

また、当社ホームページに財務・IRに関するページを 設け、決算短信、適時開示資料、有価証券報告書など を情報開示後(プレスリリース)、速やかにホームページに掲載しています。

#### 利益配分に関する基本方針

リケンテクノスは従来から安定した配当を継続して実施することを努めています。積極的な事業展開を行なうため十分な内部留保の維持と株主の皆様に対する利益還元を果たせるよう、剰余金については自己株式の買い受けを含め、効率的な使用を取締役会で十分検討の上、決定しています。

基準日 -		1株当たり配当金	1
<b>基华口</b>	中間期末	期末	年間
2007年3月期	4円00銭	4円00銭	8円00銭
2008年3月期	4円00銭	4円00銭	8円00銭
2009年3月期	4円00銭	2円00銭	6円00銭
2010年3月期	3円00銭	3円00銭	6円00銭

#### 株式状況・株主の構成

外国法人など 3.42% 2,267千株 (65名)	自己名義株式
その他の国内法人 34.19%	3,865千株 (1名)
(113名) / 236,0	00,000株
	13,819株 個人・その他 17.56%
証券会社 (*株式のね	
292千株(27名)	金融機関 38.52% 25,470千株(37名)
2,267千株 (65名) その他の国内法人 34.19% 22,604千株 (113名) 発行可能 236,0 発行済株 66,1 株主数 証券会社 0.44%	株式総数 00,000株 式の総数 13,819株 5,776名 (元) 31日現在)) 金融機関 38.52%

## 地域のみなさまとのかかわり

リケンテクノスグループでは、地域社会との共生のために様々な取り組みを行い、事業活動へのご理解をいた だいています。

#### 地域のみなさまとの交流

#### ● 埼玉工場

●近隣住民との懇談会(年1回)



- ●コスモス祭の協賛、参加
- ●ふかやシティハーフマラソンの協賛、参加
- ●おかべふれあいカーニバルの協賛、参加
- ●近隣自治会の夏祭りの協賛

#### ● 三重工場

- ●近隣住民との懇談会・工場見学の実施(2年に1度)
- ●亀山市駅伝大会・納涼大会への協賛および参加
- ●全国より工場見学者の受入
- ●近隣自治会主催子供祭りへ寄付金贈呈
- ■亀山ハイウェイオアシス館へ展示品の提供
- ●亀山音楽祭(亀山ミュージックジャンボリー)への 協賛

#### ● 群馬工場

●地域主催の夏祭りに協賛(協賛金・ラップ)

#### 地域の環境を守るために

リケンテクノスでは、地域の環境を守るためボランティア活動を行っています。

#### ● 埼玉工場

- ●工場周辺ゴミ拾い(月1回)
- ●岡部駅までの線路沿いゴミ拾い(年2回)
- ●ゴミの分別の徹底
- 納入業者、社員駐車場のアイドリングストップ指導、 実施

#### ● 三重工場

- ●工場周辺道路および河川敷の清掃(年2回)
- 亀山市主催清掃ボランティア活動への参加(年2回)
- 川と海のクリーン大作戦・不法投棄禁止キャンペーン(年2回)緑の募金へ寄付金拠出 主催団体:(社) 三重県緑化推進協会
- 「かめやま会故(エコ)の森」環境整備活動への協 賛および森林整備ボランティア活動(年4回)
- ■環境省主催ライトダウンキャンペーンの実施

#### ● 群馬工場

- ●管理職による工場周辺のゴミ拾い(年2回)
- ●居住地域での廃品回収、ゴミ拾い、河川浄化
- ●ゴミ分別の徹底。リサイクル率の向上



駅伝大会 (三重工場協賛)



子供神輿 (埼玉工場協賛)



三重工場周辺の清掃

### 地域のみなさまとのかかわり

#### 社会への貢献

米国リムテックコーポレーションとリケンエラストマー ズコーポレーションでは、毎年「ユナイテッドウェイ」\*1 の募金活動に参加しています。

リケンU.S.A.コーポレーションでは社員が自発的に地域 のボランティアでボーイスカウトに参加しています。

\*1 アメリカで最大規模の募金組織。

#### リケンU.S.A.コーポレーション 水嶋 克義 社長

当社では、社員が積極的に地元のボーイスカウトに参加しています。ボーイスカウトは単に野外活動を推進する団体ではなく、Kids (子供)をGentlemen (大人)に育てるためのプログラムです。各地域のTROOP (小隊)とよばれるグループ毎に活動し、TROOPは親のボランティアでの運営が前提です。地域の子供達の健全な育成に貢献でき、TROOPが企画、実行するボランティア活動(市のイベントのサポート、清掃活動など)により、地域との交流がより広まります。



#### インターンシップ

未来を担う子供たちのために職場体験・インターンシップを積極的に実施しています。

2009年1月に実施した埼玉工場での職場体験記とリケンU.S.A.でのインターンシップをご紹介します。埼玉工場では、家庭用ラップの製造工程での実習を体験していただきました。

#### リケンU.S.A.コーポレーション 茂木 真衣子 さん

インターンシップは、今まで日本での事務経験しかない私にとって、自分の視野を広げる良い機会になったと思います。 3人体制といった少人数のオフィスだからこそ、



社内の状況が見え様々な業務に挑戦でき、その中でもウィンドウフイルムの販促、展示会への出展などは、直接お客様と触れ合う機会もあり大変貴重な経験となりました。アトランタで行われる展示会に向けて残された時間を有意義に過ごしたいと思います。

#### 埼玉工場 埼玉県立熊谷工業高等学校 機械科1組 生徒代表

ラップの工場では、箱の継ぎ足し方やラップの見分け方など、製造工程を一から見せてもらいました。それを踏まえて作業をしたのでとてもスムーズでした。分からない所もしっかりと指導してもらいました。最終日には、エンジニアリング課で、モーターの解体などをしてとても貴重な体験が出来ました。仕事の大変さや楽しさを実感できるインターンシップでした。

#### 埼玉工場 埼玉県立熊谷工業高等学校 機械科2組 生徒代表

コンベヤーに載って運ばれてくるラップに異物が 混入していないか点検したり、化粧箱をセットしたり、ダンボールへの箱詰めをしました。異物が 混入しているラップを見つけてとてもほめられました。最初は緊張しましたが、押出フイルム製造 課の人たちがとても優しくしてくれたので、楽しくスムーズに作業ができました。工場見学では初めて見るものばかりで、とても勉強になりました。 将来、私もリケンテクノスのような、良い環境に就職したいです。

## 従業員とのかかわり

#### 管理本部長メッセージ



リケンテクノス株式会社 取締役 管理本部長 〈まの みどう 能埜御堂 真

## 一人ひとりが成長を実感し、ワクワクして仕事に取り組む、リケンテクノスはこのための環境づくりを進めています。

リケンテクノスは塩化ビニルの将来性に夢を託し、技術をよりどころに事業を興したベンチャー企業であり、技術を磨き、新しいものにチャレンジするという優れたDNAを持っています。このDNAを引継ぎ、社員一人ひとりが強い責任感のもと、相互信頼に支えられ、チームとしてよい仕事をすることを通じて成長し、さらに新しいこと、難しいことにワクワクしてチャレンジする。リケンテクノスはこのための環境づくり、制度づくりを進めています。

#### 次世代の育成

#### ●「2020リケンテクノスを考える会」

当社が100年企業となるために、2020年のリケンテクノスのミッション・ビジョン・戦略を14名の30代中堅社員に熱く検討してもらっています。



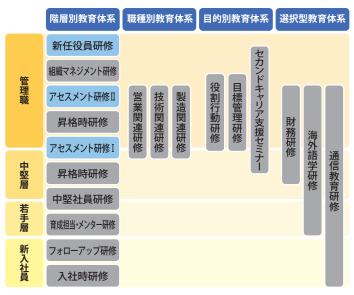
#### 経営層の育成

経営補佐層の方々を対象に「組織マネジメント研修」を実施しています。戦略的思考とプロセス管理力の獲得を目的に、各プロジェクトを成功させるべくアクションラーニングを行っています。

#### 人材育成の考え方

企業の成長は、社員一人ひとりの成長によって支えられています。「私たちは応援します!自ら成長しようと努力するひとを!」をスローガンに、努力している社員を応援し、社員も会社も成長していく相互成長の関係を築ける体制づくりを行なっています。その施策として、自己申告制度を導入して一人ひとりの志望・要望と元気度などを面接を通じて把握し、より成長できる環境づくりにつなげています。また、会社の求める人材像として「自立・創造・実践できる人」を掲げ、各人が役割に応じた行動を確実に実践するように人事制度上も役割行動考課を導入し、「仕事を通じて成長する」ことを図っています。これらの活動を通じて、社員一人ひとりが成長し、会社が目指している高付加価値型企業基盤の確立の実現へつなげています。

#### リケンテクノス教育プログラム



リムテックコーポレーション 井上 宏一 さん

#### 海外語学研修を受けて

RIMTEC出向に先立ち約2ヶ月間語学研修を行なってきました。研修地のBostonは伝統のある都市で治安も良く人々も親切で米国のイメージが変わりました。英語の環境に触れられ大変ありがたく感じています。

アメリカの経済はリーマンショックの影響が大きく、原料価格の上昇の中で、着実に施策を実行していく必要があります。早く現地に溶け込んでRIMTEC発展の一助を担えるよう努力していきたいと思います。



#### 子育て支援

#### ● 育児休業制度

最長2年間の休業ができます。(男性も取得可能) さら に育児休業の最初の3日間は有給とし、男性の取得もし やすくしました。

リケンテクノス株式会社 大阪支店 総務グループ 青田 美奈子 さん

子育では本当に手がかかり、一日24時間では足りないくらいです。現在二人目を妊娠中でさらに短時間での勤務です。働く女性の事情を配慮した柔軟な対応に感謝していま



す。子どもは本当によく病気にかかります。休んだ時のフォローの体制をさらに整えてもらえると、 今後も安心して両立できると思います。仕事も家庭も子どもも、という欲張りな生活が送れて、毎日とても充実しています。

リケンテクノス株式会社 フイルム事業部 フイルム管理部 CSグループ 孫 黎黎 さん

産休・育児休暇をトータルで1年1ヵ月を取らせていただきました。初産で心身的にボロボロになっていましたが、育児休暇を利用することができ、元気な姿に戻りました。



子育てはすごく大変ですが、会社の完全な産休・ 育児休暇制度があったため、負担を感じずに子育 ての一番辛い時期を過ごしました。本当に助かり ました。

#### ● 育児短時間勤務制度

育児をしている社員が、1日6時間まで勤務時間を短縮できます。家庭や保育園などの個別事情に応じた働き方が選べます。小学校入学前まで利用できる制度です。

#### 社員の多様性への対応

当社は社員の多様性、人格、個性を尊重し、人権および 雇用機会均等などにも配慮をしています。当社では女 性が活躍できるような様々な取り組みをしていますが、 残念ながら現在、女性管理職はおりません。

#### 表彰制度

リケンテクノスでは表彰規程や職務発明制度を設けています。業務の効率化や企業体質の改革、社員のモチベーション向上につながる改善提案、発明などに対して表彰を実施しています。

#### 2009年度表彰を受けて

埼玉工場 押出フイルム製造課 大家 政雄 さん

品質改善の取り組みに対し、事業部長賞をいただきありがとうございます。エンジニアリング課をはじめ他部署を含めた皆の問題解決意識の強さで一丸となって出来た物だと実感



しております。今後も顧客第一、品質第一に考え、信頼性の高い製品造りを目指して努力して参ります。

#### 再雇用制度

60歳を超える高齢者の活用は、会社にとっては技能伝 承の面で、社員にとっては生活の安定という面で、双 方にメリットがあります。そこでリケンテクノスでは 2006年度から組合員層、管理職層を対象にした再雇用 制度を導入しています。導入以来、対象年齢を63歳ま でとしておりましたが、2009年4月1日に本制度を改正 し、最長65歳までを対象としております。

#### 奨学金制度

リケンタイランドカンパニーリミテッドでは、社員の子 供達の勉強推進と、収入の少ない社員に対する援助を 目的に奨学金制度を取り入れています。対象者は勤続 年数1年以上の1等級~6等級までの社員の小学生の子 供達です。2010年度は6名に授与されました。

#### 奨学金を受けた皆さんと代表者メッセージ













私はラッサワディ カッドファンと 申します。ニック ネームはクワント ンです。小学六年 生です。奨学金が もらえるよと母に 言われた時、とて もうれしかったで す。母の働いてい る会社へ行った時 はとても緊張して いました。もらっ たお金で勉強用具 を買います。学校



の先生と友達に言ったら、皆「おめでとうね」と言ってくれ ました。私はうれしくて微笑んでやみませんでした。最後に なりますが、奨学金を下さったリケンタイランド様、ありが とうございました。

(現地社員による日本語訳)

#### 安全衛生活動

#### ● 安全衛生の考え方

リケンテクノスは、事業場で働く全ての人が「かけが えのない存在」であり、「安全を意識しなくても安全が 確保できる安全・安心な職場づくり」を目指す事を安 全衛生活動の狙いとしています。

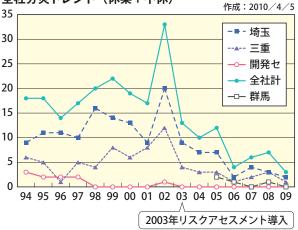
### ●「リスクアセスメント」による危険・有害源撲滅 活動の定着

2003年にリスクアセスメントを導入後、未然防止型の 改善活動が定着しました。「災害ゼロ」から「危険ゼ 口」となるように先取り型の改善活動が全員参加で強 力に進められています。

#### ● 災害件数が減少、成果が顕在化

2009年度の労働災害は3件でした。安全衛生目標であ る災害ゼロは未達成でしたが、操業開始以来、災害件 数は最少でありました。(最少は2006年の4件)

#### 全社労災トレンド (休業+不休)



### ● ヒューマン・エラーによる災害の防止

究極の目標である「災害ゼロ」「危険ゼロ」を達成させ るため、人的要因(ヒューマンファクター)に起因す る災害を予防することに努めています。

人は何故ミス・エラーをするのか、真の原因を究明し 予見される誤使用に対し、基本的な安全および安全防 護についての措置をとっています。

#### ● 緊急時対応

各サイト・各部門で緊急事態対応一覧表を作成し、定 期的に訓練を実施しています。

特に、化学物質の社外への流出防止および消防法危険物 起因の火災予防を最重点課題として取り組んでいます。



## 環境管理活動

#### 環境に関する経営の基本方針

当社は、環境との調和に配慮した企業活動を通じ、豊かな社会の実現に貢献し、全てのステークホルダーからの信頼に応えうる企業の構築に取り組んでいます。

#### 環境基本理念

当社は、お客様の課題を素材と加工技術の提案で解決するプラスチックの加工会社として、あらゆる企業活動において環境との調和に配慮し、地球環境の保全と持続可能な社会の実現に努めます。

#### 環境方針

当社は、基本理念を具体的に実現するために、環境マネジメントシステムを構築し、全員参加のもとに次の事を実施します。

- 事業活動において、環境法規およびその他の合意事項の遵守のみならず、自ら規定類を定め、環境管理レベルの継続的改善、環境汚染の予防を推進します。
- ② 安全性の確保された原材料を使用し、省エネ・省資源型製品、リサイクル適合製品、生態系への負荷の少ない製品などの環境に配慮した、さまざまな素材のプラスチック製品などを社会に供給します。
- ③ 可能な限り無駄を削減し、原材料の有効利用、使用 エネルギーの極小化に努め、二酸化炭素排出量の削 減と産業廃棄物の削減を行い、地球環境・生態系へ の負荷を軽減します。
- ③ 環境基本理念・環境方針を含め社内規定類を文書化 し、社員への教育・啓蒙活動により、継続的な環境 保全活動の定着化を図ります。
- ⑤ 環境方針達成のために環境目的およびできる限り数値化した目標を設定し、定期的に自己評価を行い、 進捗を適時管理します。
- ⑤ 以上の活動を当社グループの活動に結び付け、各拠点における地域環境・生態系保全に最大の配慮を行い、安全な操業を確保します。

ISO14001認証取得

全社全部門にて同規格を認証取得し、全社一丸となった環境活動を実施しています。

初回登録 2001年10月31日 有効期限 2013年8月30日

## 環境マネジメントシステム

#### 環境監査の体制

#### 1 内部監査

総括環境管理責任者の指示のもと、約100名の内部監 査員によって毎年1回、品質、製品安全事項を含み、環 境マネジメントシステムの内部監査を行っています。 2009年度は73部署で監査が実施され66件の指摘件数が ありました。

是正処置の実施により引き続きマネジメントシステム の改善・確実な実施を図っていきます。

分類	品質	環境	製品安全	共通事項
指摘割合	42%	29%	11%	18%
主な指摘事項	購入先監査記録の不備 プログラムの具体性不備	環境側面調査表の不備 緊急事態対応の周知不備	PL教育の不徹底	文書管理不備 教育記録不備

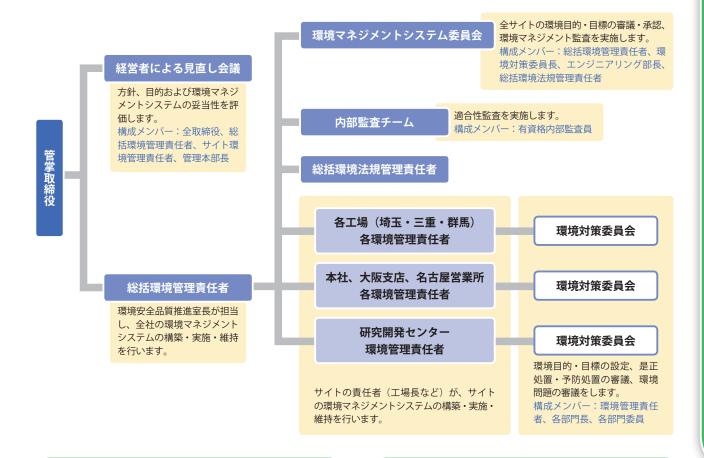
#### 2 外部監査

外部審査機関の日本海事検定キューエイ(㈱による定期 審査を2回/年の頻度で受審しています。2009年度は、 軽微な不適合2件、改善事項5件の指摘が有り、委託業 務の環境側面特定、環境目的・目標登録表の管理強化などを図りました。

また、2009年度は14社の顧客の監査を受けました。環 境面では、防虫管理に関する要望をいただきました。

### 環境マネジメントシステム組織図 (推進体制と役割)

管掌取締役を最高責任者とし、総括環境管理責任者の 指揮のもと、各サイトに環境管理責任者を置き環境マ ネジメントシステムを構築しています。



#### 従業員の環境教育・啓発の実施状況

2009年度は、エネルギーの大切さ、地球温暖化(二酸化炭素排出)への意識向上を図ることを目的に、従業員そしてその家族を対象に日常生活における「エコライフDAY」アンケートを夏・冬2回実施し、夏698名、冬694名から回答が寄せられました。一人当たりの平均二酸化炭素削減量は夏858g-CO<sub>2</sub>/日、冬561g-CO<sub>2</sub>/日でした。

また、CSR報告書も社員一人ひとりへ配布し、一人ひとりの活動結果の当社全体への影響を理解するよう啓発しています。

#### 事業活動に係る環境法規・協定

各生産工場、各営業拠点での遵守すべき環境法規・協定などおよびその概要を「環境適用法規基準」にて明確にし、環境法規についての遵守を徹底しています。 2009年度の活動の結果、環境に関する法規・協定に対する違反はありませんでした。

#### 拠点ごとの遵守すべき環境法規・協定などの件数

埼玉工場	29件	大阪支店	2件
三重工場	27件	名古屋営業所	2件
群馬工場	24件	研究開発センター	20件
本社	3件		



## 活動結果の概要

### 2009年度 環境目標と実績

当社は毎年環境方針を基に、事業環境に見合った環境目標を設定し、改善活動を進め、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出量削減、産業廃棄物の排出量削減そして化学物質の管理強化を主テーマとして全社横断的に取り組んでいます。本年4月、2012年度目標として見直し、新たに活動をスタートしました。

2009年度は全社各部署合計で135 件の目標が設定され右表の成果を 挙げました。各部署でのきめ細か な対応がCO<sub>2</sub>削減、廃棄物削減に 貢献しました。

#### 目標

	2009年度目標	2012年度目標
CO <sub>2</sub> 排出量削減	2002年度比 9%削減	総排出量削減:2008年度比4%削減 生産量比削減:2008年度比4%削減
廃棄物排出量削減	単純廃棄物量の 総生産量比0.5%	単純廃棄物* <sup>1</sup> 量の総生産量比:0.5%以下 総廃棄物量の生産量比:5%以下
化学物質管理の強化	独自に指定した化学物質の使用削減、使用停止。環境配慮製品 の開発。	

※1 単純廃棄物:単純に埋立あるいは燃焼処理された廃棄物

#### 達成

	目標設定 件数	達成件数	2009年度実績
CO <sub>2</sub> 削減	48	39 (81%)	2002年度比で13.4%削減しました。 2008年度比では6.7%の削減でした。
廃棄物削減	28	25 (89%)	単純廃棄物量の総生産量比0.30%で、2010 年度目標を継続クリアーしました。
化学物質管理	47	43 (92%)	化管法第一種指定化学物質の2009年度使用
環境配慮製品 の開発	12	8 (67%)	量は、2,794tで、2001年度比60%削減しました。 バイオプラスチック製品、燃料電池部材の製品開発に取り組んでいます。
合計	135	115 (85%)	

## リケンテクノスの環境負荷の状況

当社の事業活動からは、産業廃棄物の排出、温室効果 ガス(二酸化炭素)の排出、化学物質の排出・移動が 大きな環境負荷項目として挙げられます。各々排出削 減や適正管理に努めています。リケンテクノス全事業 所(単体)での環境負荷実態を記載します。

#### 生産に係わる製品1トン当たりのCO2負荷量(2009年度)

	_		
インプット		アウトプ	ット
原材料(塗料など含む)	90,158t	コンパウンド製品	55,419t
梱包資材	3,173t	フイルム製品	17,430t
電気	64,020MWh	包装用ラップ製品	7,213t
	3,393kl	総廃棄物	4,429t
水道水	151,554m <sup>3</sup>	排水量	334,063m <sup>3</sup>
地下水	184,371m <sup>3</sup>		
工業用水	8,432m <sup>3</sup>		

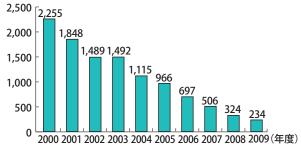


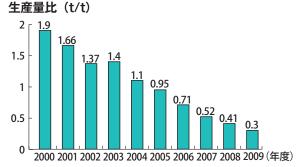
#### 廃棄物の削減

当社は、製造段階で発生する埋立・焼却廃棄物の削減 を環境管理活動の主課題に位置付け、目標として「2012 年度単純廃棄物量の総生産量比0.5%」を掲げ活動して います。歩留り向上などにより廃棄物の発生そのもの の抑制を図るとともに、発生した廃棄物に関しては分別を徹底し、マテリアルリサイクル、サーマルリサイクル<sup>\*1</sup>、RPF(プラスチック由来の固形燃料)、セメント原料化などの有効利用への転換を図っています。 削減活動の結果、2000年度の埋立・焼却廃棄物発生量

2,255トンに対し、2009年度は234トンで、89.6%削減しました。

#### 単純埋立燃焼産業廃棄物発生量<sup>※2</sup>(t)





- ※1 サーマルリサイクル:廃棄物の焼却の際に発生するエネルギーを回収・利用すること。
- ※2 埼玉工場、三重工場、群馬工場、研究開発センターで発生した単純埋立燃焼廃棄物量です。

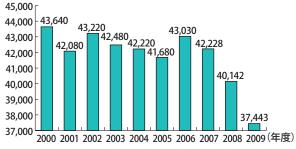
### 省エネルギーと 温室効果ガスの排出削減

当社は埼玉工場、三重工場が第一種エネルギー管理指定工場に指定され、群馬工場は第二種エネルギー管理指定工場に指定されています。当社の事業活動から生じる温室効果ガスの主なものはCO<sub>2</sub>(二酸化炭素)です。CO<sub>2</sub>の排出量削減の目標として「2012年度に2008年度比4%削減」を掲げ活動しています。設備の稼動効率向上、空調機のデマンド制御\*1、工業用圧搾空気・

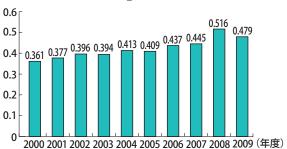
蒸気の漏れ防止管理などの省エネ活動を推進しています。なお、空調機の冷媒フロンは温室効果ガス<sup>※2</sup>であり、使用・廃棄時漏れのないよう管理の徹底を図っています。

改正省エネ法における企業としての集計が必要となり、 既に2008年度より各営業拠点を含めた集計とし、省エネルギーやエネルギー効率の向上に努めました。2009 年度の排出量は37,443トン(CO₂換算)で、2002年度 比で13.4%削減しました。

#### 二酸化炭素排出量(t-CO<sub>2</sub>)



#### 生産量比排出量(t-CO<sub>2</sub>/t)



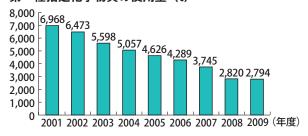
- ※1 空調機のデマンド制御とは、電力会社との契約電力の最大値に近づいた時、自動的に空調機の圧縮機を停止させ電力の消費を抑える制御方法をいいます。
- ※2 温室効果ガスは、埼玉工場、三重工場、群馬工場、研究開発センター、本社および各営業拠点で使用した電気、重油などの消費によるCO<sub>2</sub>排出量を算出 しました。2005年より本社を、2008年度より各営業拠点を含みCO<sub>2</sub>排出量を計上しています。物流における石油燃料消費のCO<sub>2</sub>排出量は除いています。

#### 化学物質の適正管理

当社は、従来から化学物質審査規制法、労働安全衛生 法や消防法などに基づき、化学物質管理を実施してい ましたが、2001年4月より化学物質排出把握管理促進 法が施行されました。管理の徹底のため、当社も1999 年度に集計システムを構築いたしました。

2009年度の化管法第一種指定化学物質の使用量は、 2,794トンで2001年度比60%削減しました。また第一種 指定化学物質の使用数は、2008年度26種類に対し2009年度は23物質でした。うち1トン以上使用し届出したものは7物質でした。

#### 第一種指定化学物質の使用量(t)



#### PCB廃棄物の保管状況

2001年7月、「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」(PCB\*<sup>1</sup>特別措置法)が施行されました。当社では埼玉工場、三重工場、研究開発センターの3事業所でPCB廃棄物として主に高圧コンデンサを適切に保管管理し、関東地区・関西地区の処理施設

での適正処分を計画しています。なおグループ全体での管理強化のため2005年度中に関係会社で保管していた6台の廃PCB機器を埼玉工場に移動・保管しました。また1989年以前の重電機器には微量のPCBが含有された絶縁油が使用されている可能性が高いため、使用中のコンデンサ・トランスの調査分析を順次進めています。コンデンサ19台が分析未実施で使用中、低濃度含有のトランス・リアクトル7台が使用中です。

事業所名	PCB廃棄物		保管方法			
埼玉工場	高圧コンデンサ 高圧トランス PCB含有廃水・廃油	15台 2台 1,446L	(高濃度) (低濃度) (低濃度)	鉄製容器に保管 ドラム缶封入後鉄製容器に保管		
研究開発センター(東京)	高圧コンデンサ	12台	(高濃度)	鉄製容器に保管		
三重工場	高圧トランス PCB含有廃油 PCB含有ウェス	4台 350L 300g	(低濃度) (低濃度) (低濃度)	鉄製容器に保管 ドラム缶封入後鉄製容器に保管 ドラム缶封入後鉄製容器に保管	*1	PCB: <u>P</u> <u>B</u> iphen フェニ

\* 1 PCB:<u>P</u>oly<u>c</u>hlorinated <u>B</u>iphenyl(ポリ塩化ビ フェニル)の略称

#### ストック汚染・公害防止の取り組み

過去に使用実績のある、または使用中の重金属の内3種類(六価クロム、カドミウム、鉛)および塩素系有機洗浄剤(トリクロロエチレン、1,1,1ートリクロロエタン、ジクロロメタン)による土壌汚染の有無について、2001年に各工場、事業所の調査を行った結果、蒲田工場(現研究開発センター)において汚染が確認され、2004年、9,668万円を投じ改質契約を結び、以降、定期的な測定、薬剤注入による改質を継続中です。

法規制および自主規制監視項目について定期的に測定を実施しています。項目として排ガス、地下水、騒音、振動、臭気、放射線、粉塵などがあり、特に騒音対策に配慮しています。各工場では近隣住民の皆様と懇談

会を定期的に開催させていただき、環境測定値の公開、 工場内の査察の実施を通じ当社の事業活動へのご理解 をいただいています。

#### 特定化学物質規制への対応

原材料管理については、欧州におけるREACH、67/548/EEC、76/769/EECなどへの対応、また日本における化学物質に関する諸規制の改正への対応をより充実するため、JAMPに準じ当社独自化学物質含有情報シートを作成し、2009年8月からRoHS6物質の測定データ、微量残留化学物質を含めた規制対象化学物質の含有情報を入手することとしました。

※詳細は、当社ホームページの『リケンテクノスグループのグリーン 調達基準』をご覧ください。

## 環境会計

当社は、環境保全活動への取り組みに関する会計情報を2006年度より開示しています。

#### 2009年度環境会計の集計基準

● 集計範囲:リケンテクノス全事業所(単体)

② 対象期間: 2009年4月1日~2010年3月31日

3 参考文献: 『環境会計ガイドライン2005年版』 (H17.2)

環境省発行)

#### 2009年度環境会計の総括

2009年度は環境保全コストが投資額約1,155万円、費用額約9.8億円で合計約9.9億円でした。投資額の内訳は公害防止・地球環境保全・資源循環コストです。費用額ではRoHS指令対応のための分析費用やISO維持活動などがあり、環境配慮型製品の研究開発費用が約8.7億

円と非常に大きなウエイトを占めています。

活動の結果の環境保全効果として、廃棄物最終処分量 はサーマルリサイクルの推進により前年度比88トン削 減できました。またCO<sub>2</sub>排出量については継続的な改善 努力により前年度比約2,699トン削減しました。

経済効果として廃プラの有価売却などで約1,050万円発生しました。

#### 環境保全コスト

単位:千円

34つに1741			半位・十円
分類	調査対象の取り組みの内容	投資額	費用額
●事業エリア内コスト		11,550	84,977
公害防止コスト	騒音対策工事、飛散防止設備の維持管理	0	41,860
地球環境保全コスト	省エネ設備の導入・改善	11,550	0
資源循環コスト	産廃処理、リサイクルコストなど	0	43,117
01 77-71	製品含有化学物質分析費用	0	16,965
❷上・下流コスト	容器包装リサイクル委託費用など	0	108
❸管理活動コスト	CSR報告書発行、ISO維持活動(外部審査費用) 排水・VOC分析、構内緑地管理費など	0	8,535
❹研究開発コスト	環境配慮型製品の研究開発費	0	871,200
5社会活動コスト	工場周辺美化活動費、寄付金	0	846
6環境損傷対応コスト	該当無し	0	0
合計		11,550	982,631

#### 環境保全効果

環境保全効果の分類	環境パフォーマンス指標		2008年度	2009年度
	総エネルギー投入量(GJ)		779,000	760,706
		電気(MWh)	66,479	64,020
		重油(KL)	3,733	3,393
	種類別エネルギー投入量	灯油 (KL)	1	0
事業活動に投入する資源に		ガソリン(KL)	62	53
関する環境保全効果		軽油(KL)	14	15
	PRTR管理対象物質投入量(t)		2,820	2,794
	水資源投入量	水道水(m³)	155,287	151,554
		地下水 (m³)	145,719	184,371
		工業用水(m³)	5,170	8,432
	温室効果ガス排出量(t-CO <sub>2</sub> )		40,142	37,443
	PRTR管理対象物質排出量(t)		4.7	4.1
事業活動から排出する	PRTR管理対象物質移動量(t)		5.4	12.5
環境負荷および廃棄物に 関する環境保全効果	廃棄物など総排出量(t)		5,819	4,429
	廃棄物最終処分量(t)		322	234
	排水量(m³)		294,581	334,063
事業活動から産出する財・サー ビスに関する環境保全効果	容器包装使用量(t)		3,689	
スの供の理控化人が用	製品などの輸送量(トンキロ)		29,087,836	27,752,000
その他の環境保全効果	輸送に伴うCO <sub>2</sub> 排出量(t)		5,120	4,790

#### 環境保全対策に伴う経済効果

単位:千円

効果の内容	金額		
※ 対策の内容	2008年度	2009年度	
プラスチック・紙屑などの再資源化による利益	9,455	5,804	
省エネなどによる費用削減	5,534	1,140	
合計	14,989	6,944	

#### ● 資産除去債務について

資産除去債務に関する会計処理は平成 22年4月1日より適用が始まりました。 リケンテクノスは資産除去債務の適用 に向けて準備を進めております。現時 点での環境関連法令規定による資産除 去債務を次のように把握しております。

環境関連法令規則	現状	処理費用
PCB特措法	各地方自治体に数量など 届出済み	3,500万円
石綿障害予防規則	石綿使用部位特定済み	2,900万円
土壌汚染対策法・ 各地方自治体条例	土地の売却予定なし	-

## リケンテクノスグループ環境データ

#### ● 埼玉工場

●敷地面積:80,740m<sup>2</sup>

●事業内容:塩化ビニル樹脂をは じめとする各種熱可塑性樹脂の コンパウンド、フイルムおよび ラップフイルムの生産

●従業員:295名

#### ● 三重工場

●敷地面積:54,848m²

●事業内容:塩化ビニル樹脂をは じめとする各種熱可塑性樹脂の コンパウンド、フイルムおよび ラップフイルムの生産

●従業員:241名

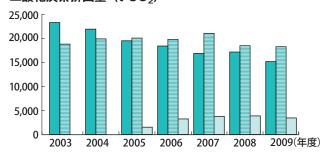
#### ● 群馬工場

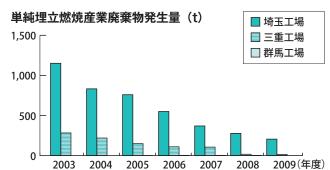
●敷地面積:55,903m²

●事業内容:クリーン環境下での 高機能フイルムの製造

●従業員:36名

#### 二酸化炭素排出量(t-CO<sub>2</sub>)





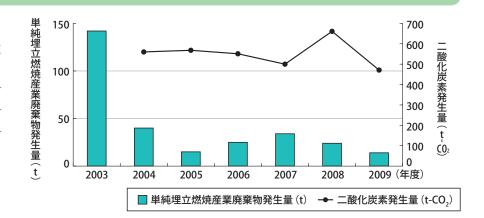
#### 進興電線株式会社

●所在地:埼玉県入間市

事業内容:電線の製造・販売

●会社概要

資本金	4,800万円
従業員数	99名



#### 株式会社協栄樹脂製作所

- ●所在地:東京本社、福島白河 工場、茨城工場
- 事業内容:合成樹脂押出成形 および加工
- ●会社概要

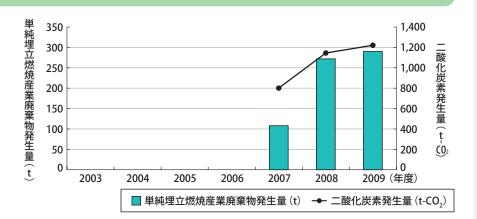
資本金	2,400万円
従業員数	70名



#### エムアイ化成株式会社

- ●所在地:滋賀県湖南市本社、 湖南工場
- 事業内容:塩ビコンパウンドの製造・販売
- ●会社概要

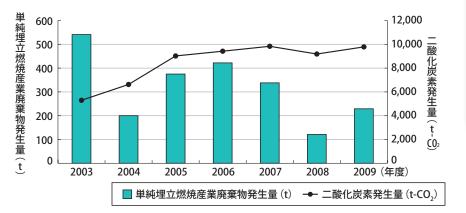
資本金	3億円
従業員数	37名



#### RIKEN (THAILAND) CO.,LTD.

- ●所在地:タイランド
- 事業内容: 塩ビコンパウンドの製造・販売
- ●会社概要

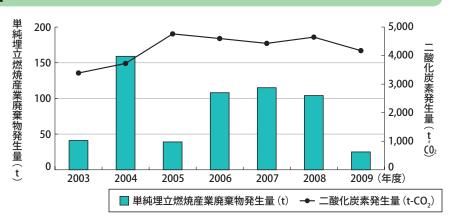
資本金	1億2,000万バーツ
従業員数	226名



#### RIMTEC CORPORATION

- 所在地:アメリカ合衆国、ニュージャージー州
- 事業内容:塩ビコンパウンドの製造・販売
- ●会社概要

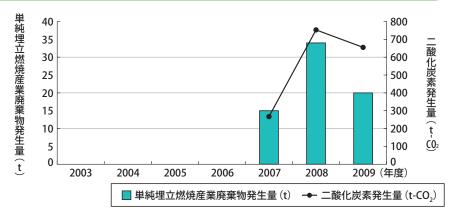
資本金	1,000万米ドル
従業員数	91名



#### **RIKEN ELASTOMERS CORPORATION**

- 所在地:アメリカ合衆国、ケンタッキー州
- 事業内容:高機能プラスチックコンパウンドの製造・販売
- ●会社概要

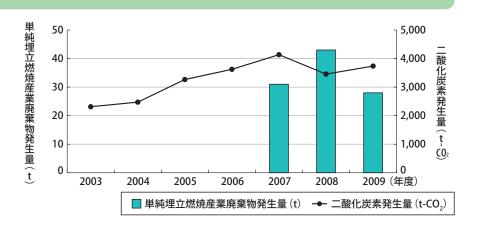
資本金	1,000万米ドル
従業員数	13名



#### PT. RIKEN INDONESIA

- 所在地:インドネシア、ジャカルタ近郊
- 事業内容: 塩ビコンパウンドの製造・販売
- ●会社概要

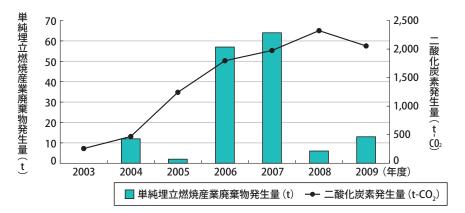
資本金	570万米ドル
従業員数	124名



#### SHANGHAI RIKEN TECHNOS CORPORATION (上海理研塑料有限公司)

- ●所在地:中国、上海
- 事業内容:塩ビコンパウンドの製造・販売
- ●会社概要

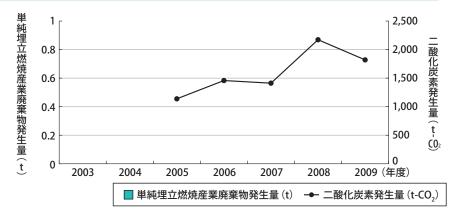
資本金	750万米ドル
従業員数	99名



#### RIKEN TECHNOS (JIANG SU) CORPORATION (理研食品包装 (江蘇) 有限公司)

- 所在地:中国
- ●事業内容:食品包装用ストレッチフイルムの製造・販売
- ●会社概要

資本金	1,350万米ドル
従業員数	54名



## 有識者の意見



株式会社インターリスク総研コンサルティング第一部環境グループ マネージャー・上席コンサルタント 成蹊大学 非常勤講師 なかりまきとし 猪刈 正利氏

今回でリケンテクノスグループとして4回目のCSR報告書の発行にな ります。2009年度は経営面で見事に黒字回復を果たされています が、一方で環境報告によれば、リケンテクノスグループの環境取組 の三本柱と言える「二酸化炭素排出量」「廃棄物排出量」「指定化学 物質使用量」の削減を、前年比総量ベースで全て達成されたことも 高く評価いたします。このように2009年度は、利益を増やし、一方で 環境負荷の低減を図る「環境経営」をまさに実践された年度あった と言えるでしょう。その他環境報告では、昨年コメントさせていただ いた中長期の「二酸化炭素排出量」等の削減目標策定に関しても、新 たに2012年度をターゲットに、今般、着実に制定・公表されています。 特集「きちんと開発し、しっかり造り、ちゃんと売る」では、わかり やすく「開発・製造・営業」の取組を紹介しています。また昨年コメ ントさせていただいた多様なステークホルダーとのコミュニケー ションは、育児休業制度を利用した女性社員のコメントに加えて、 今年は新たにタイ現地法人の奨学金制度を受けた社員の子供達の メッセージ、国内工場近隣の工業高校のインターンシップ学生の コメント、そして半世紀近くお付き合いのあるお取引先社長のコ メント等も記載され、たいへん充実しています。諸般の事情から、 今年度のCSR報告書は前年度対比ページ数が削減されていますが、 以上からも「簡潔でわかりやすく」という編集方針は達成できたと 考えます。なお既に実施されている国内工場の近隣住民とのコミ ュニケーションに関しては、更なる開示情報の充実が望まれます。 リケンテクノスグループは「人と技術」を重要視される企業文化 を持ちながら、創業以来半世紀以上、事業を継続してきました。 今後も「技術」を基盤に、あらゆるステークホルダーである「人」 との良好な双方向のコミュニケーションを図りながら、悪化しつ つある地球環境問題や社会問題の現状も十分に考慮の上、自社の CSR活動に継続的に取り組まれることを期待します。

#### ●ご意見を受けて

#### リケンテクノス株式会社 代表取締役社長

#### 清水 浩

当社は、2002年より環境に主眼をおいた「環境 報告書」「環境経営報告書」に取り組み、2007年 よりさらに社会性側面を含めた「CSR報告書」を 発行し、今回で4回目となりました。2009年度は、 厳しい経済情勢のなか黒字回復を果たすことが できました。これは「きちんと開発し、しっかり 造り、ちゃんと売る」という「もの造りの原点」 に立ち返って全社員が誠実に行動した結果だと 思っております。「CSR報告書」の創刊号よりご 意見を頂いている猪刈様から、今一番お伝えし たいリケンテクノスグループの「もの造りの原 点」を見直す特集に対し「わかりやすい」とのご 評価を頂いたことは大変嬉しく思っております。 環境への取り組みに関しては、「環境方針」に生物 多様性に関する考え方を新たに盛り込みました。 また、二酸化炭素排出量は生産量が増えたにもか かわらず大幅に削減することができました。これ は特に埼玉工場のボイラー蒸気使用量の改善によ るものです。リケンテクノスグループは、これか らも慢心することなく「二酸化炭素」「廃棄物」「指 定化学物質使用量」の削減を目指してまいります。 猪刈様よりご指摘いただいた国内工場の近隣住 民のみなさまとのコミュニケーションに関して は、さらなる情報開示に努めてまいります。 これからも地球環境を守りながら、皆が豊かに 暮らしていけるようリケンテクノスグループの技

これからも地球環境を守りながら、皆が豊かに 暮らしていけるようリケンテクノスグループの技 術を生かして、CSR活動を積極的に推進してまい ります。

横 ま 本報告書は、CSR報告書として4回目の発行となります。 今回は、当社が「もの造り」の原点を見直し、マテリアル

ソリューションサプライヤーとしての責任をいかに実行しようとしているかを皆様にお伝えすることに重点をおきました。また、2009年版のCSR報告書に比べ紙面のページ数を大幅に削減し、環境負荷をさげると共に、簡潔でわかりやすく内容をお伝えできるよう配慮いたしました。

本報告書を通じて当社のCSR活動をご理解いただくとともに、率直かつ忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。

(環境安全品質推進室: 青木 秀明、冨田繁 経営企画室: 新井豊、吉岡 さやか)

J さやか)

## Material Solution Supplier

私たちは、素材と加工技術の提案で課題を解決する "マテリアル・ソリューション・サプライヤー"です。

> We are a "Material Solution Supplier", solving issues through the proposition of materials and processing technologies.

#### お問い合わせ先

この報告書の内容に関するで意見、お問い合わせは下記で承っています。

#### リケンテクノス株式会社 経営企画室

〒103-8438 東京都中央区日本橋本町3丁目11番5号 TEL: 03-3663-7996 FAX: 03-3663-7997

ホームページ http://www.rikentechnos.co.jp







この印刷物は、環境に配慮するため有害廃液を排出しない「水なし印刷」方式を採用しています。またインキには大豆油インキを、用紙は適切に管理された森林からの原料を含むFSC認証紙を使用しています。